第 11 回民俗学シンポジウム「食と文化」　報告概要

〇村中孝司（ノースアジア大学　経済学部准教授　雪国民俗館館員）

「しいたけ生産と食習慣の地域性」

きのこは日本人の食事には欠かせない。しいたけはその中でも代表的な食材の一つである。きのこの購入量は、全般的には信越、東北地方に多い傾向があるが、品目ごとにはまた異なり、種類への嗜好性の地域差を知ることができる。なお、しいたけについては、秋田県が最も多い。日本のしいたけ食の歴史は 9 世紀頃にさかのぼる。しかし、庶民に広く普及するようになったのは江戸時代に入ってからである。原木栽培が始まり、現在では菌床栽培によるしいたけが出回ることが普通である。山林に自生していたものを採取していた時代、毒きのこと間違えないか、危険と隣りあわせであったに違いない。それでも食そうとした、あるいは食べざるを得なかった人々は、どのような知恵を働かせただろうか。